（毎週月曜日発行・定価50円）

きれいな街づくり
SCS
草加市青柳2－19－10 http://www.scs-kk.co.jp ☎936-1234(代)

Duplo
地球環境を考え、行動します。
デュプロ株式会社
☎ 048-666-4610
http://www.duplotky.co.jp

読者と共に歩む
東武よみうり
週刊
THE TŌBU YOMIURI SHIMBUN 第2158号
2022年（令和4年）5月23日（月）
発行所 東武よみうり新聞社
〒343－0843
埼玉県越谷市蒲生茜町3－9
電話 (048)987－0611
Fax (048)987－0614

越谷天然温泉美人の湯 湯あそびひろば
遊んでも遊びきれない 温泉天国!!
ゆの華
☎048(985)4126
越谷市大間野町3-61-1 国道4号線下り沿い
営業時間 午前10時～深夜2時(年中無休)
http://www.yunohana.co.jp/

バス路線、住民が再開要望

せんげん台駅東口―越谷市立病院

バス会社「乗客激減で困難」

越谷市「財政支援は難しい」

越谷市のせんげん台駅東口と同市立病院を結ぶ「ジャパンタローズ」（松伏町）運営の路線バス（延長約8・4キロ）が2018年7月以来、休止している問題で、住民でつくる「せんげん台駅―市立病院バスの再開を願う会」は4月23日、同市桜井交流館（同市大泊）で「路線再開を考える懇談会」を開催した。住民約50人と越谷市都市計画課職員2人が出席した。住民側から「市がバス会社に財政支援して復活を」との問いに対し、市側は「バス会社とは再開に向けた協議を継続する」とした。一方、バス会社側は「新型コロナウイルスによる影響で、既存の路線バスの利用者が激減し、休止路線の再開を検討することは困難」と深刻な状況になっている。

休止バス路線の再開を求め、桜井地区の住民が懇談会

「休止」となっている路線バスは、住民や市側の要望で、2011年4月に運行開始した。多くの利用が期待されたが、当初から利用は伸び悩んだ。

12年は1日20便、1日当たりの利用者は178人。14年は1日44便に増やし、1日当たり344人まで伸びたが、16年には同256人に落ち込んだ（同市都市計画課）。

このため、「ジャパンタローズ」は18年2月、国土交通省関東運輸局に同路線の休止を届け出、同7月からストップしている。住民側は19年1月に「何とか復活を」と約6300人の署名を集めて、当時の高橋努市長に要望書を提出した。

今回開かれた「懇談会」で住民から「近隣市はバス会社に財政支援している。なぜ越谷はできないのか」や「国からの補助制度も各種あるはず。なぜ利用しないのか」などの質問が相次いだ。これに対し、越谷市都市計画課の担当者から「個別の財政支援は財政的な面からも困難。公共交通計画を作成して取り組み、協議は継続している」、「国の補助制度は複数の自治体を走る路線が対象。同路線バスには適用は難しい」と答えた。

「懇談会」を終え、同会代表の一人、土屋徹さん（67）は「多くの市民が病院への足を失い、困っている。市北部は南部、中央部に比べて地域格差がある。経営上の理由に対し、越谷市が率先して対応すべき。市民の足を確保するのは行政の責務だ」と訴えた。

タローズバスを運行する「ジャパンタローズ」側は以前、「①1日平均400人の乗客確保②運賃の改正③平日のみの運行（土日は休み）④運転手の確保――の条件さえそろえば復活させたい」としていた。

「ジャパンタローズ」の和佐見文男社長（60）は「新型コロナウイルスによる外出自粛やテレワークの普及などで、乗客が激減し経営が悪化している。今後もバス利用者の回復が不透明なことから、休止路線の再開を検討することが難しい状況」と話す。

一方、同市都市整備部の田中祐行・副部長は「今後も、バス事業者との協議を継続し、地域との協働に向けた新たな公共交通の導入に向けた取り組みをし、利便性が高く持続可能な交通ネットワークの形成を図っていく」と話す。

同市は19年度から、次世代モビリティー（移動手段）導入を検討する「新たなモビリティーサービスによるまちづくり協議会」（さいたま市など6市1町で構成）の構成市として、「パーソナルモビリティー（超小型モビリティー）」や「自動走行バス」などの取り組みに参画している。

人生会議の絵本」発行

三郷市の「在宅医療・介護」団体

シリーズ第2弾、「終活ノート」も紹介

2つの物語と4つのステップ

「人生の絵本」を発行した「広報啓発部会」のメンバーら

三郷市の医療や介護、福祉関係者などで構成する「三郷市在宅医療・介護連携推進協議会」（谷口聡会長）と、同推進協議会や歯科医師、介護事業所職員、地域包括支援センター職員らで作る「広報啓発部会」（吉嶺太朗部会長）はこのほど、「人生会議の絵本」（B5判、フルカラー）を発行した。

昨年の「介護の絵本」＝本紙昨年5月24日付既報＝に続く「介護の絵本シリーズ」の第2弾で、今回は「人生会議（ACP＝アドバンス・ケア・プランニング）」に焦点を当てている。

また、絵本では同市医師会が発行する「私の人生ノート（終活ノート）」も紹介。内容は2つの物語に加え、「大切なことは何か」「信頼できる人」「話し合い」「伝えて共有する」の4つのステップを通して〝もしもの場合の意思表示〟について書かれている。

絵本は20㌻で発行部数は2000部。市内の公共施設や介護保険窓口、市在宅医療介護連携サポートセンターや地域包括支援センター、市内医療機関や薬局などで配布している。また、「三郷市電子図書館」でも電子データの閲覧が可能で、パソコンやスマートフォンからアクセスできる。

「絵本」を担当した同市長寿生きがい課では「縁起でもないと避ける話題だが、高齢者だけでなく、若い人にも読んでいただき、お互いの気持ちを理解してもらいたい」とし、「本人が本人らしく生き、周囲の人も困らないように、日頃からお互いのことを話せるための環境を作るきっかけになれば」と話している。

サンシティ整備1年延期

越谷市 ウクライナ侵攻で資材高騰

越谷市は18日、南越谷駅・新越谷駅周辺地域の新たなにぎわいづくりに向けて検討を進めている「越谷サンシティ整備事業」を1年延期すると発表した。

サンシティ＝写真＝は、市民ホールや図書室、出張所などの行政機能と、イオン南越谷店などが入居する商業機能を併せ持つ複合施設（延べ床面積約5万7000平方㍍）。南越谷駅・新越谷駅周辺地域の核として1979年にオープンして以来、市民に親しまれてきたが、老朽化が進み、2008年には隣駅に「イオンレイクタウン」が開業し、客足が遠のいた。

20年には、商業施設を所有・管理していた第三セクターの「越谷コミュニティプラザ」が撤退したため、同社が所有する不動産（土地・建物）の持ち分を、約27億円で市が取得。現在は、約2万平方㍍の土地と施設の全部を、同市が所有・管理を行っている。

こうした状況の中、同市は、21年4月に「越谷サンシティ整備基本計画」を策定。民間活力の導入などによって現施設を建て替え、28年度のリニューアルオープンを目指していたが、これで29年度に延期となる。一方、現施設が利用できるのは、当初は23年度までだったが、24年度に後ろ倒しとなる。

事業を1年延期することとした理由について、福田晃市長は「熟慮に熟慮を重ねたが、コロナ禍の収束がいまだ見えず、さらにウクライナ情勢の影響により、エネルギーや建設資材価格が大幅に高騰するなど、社会経済情勢の著しい変化が生じている」とし、「市民の皆さんにとって最も有益なのは何かという視点から、いったん立ち止まって見極める期間が必要と判断した」と話している。

リアルタイムで情報収集

スマホで「減災ナビ」吉川市が運用開始

吉川市はこのほど、スマートフォン向けアプリ（ソフト）「吉川減災ナビ」＝写真＝の運用を開始した。

災害時の情報収集や、普段からの備えに役立つアプリで、同市が発表する避難情報や防災無線の放送内容が「プッシュ通知」（新しいメッセージをアプリが自動的にお知らせを表示する機能）で、新しい情報をリアルタイムに受け取ることができるほか、アプリを起動していなくても新しいお知らせを受け取ることができるのが特徴。

内容は、同市の最新の「ハザードマップ」や「土のうの配置場所」などさまざまな情報を確認して、いざという時のために備えることができる。

特に災害時には、アプリの地図上で各避難所の開設状況や混雑状況を確認できる。担当の危機管理課では「シンプルで使いやすいアプリにした。今後もメニューや情報を増やしていきたい」としている。

同アプリはスマートフォンからインターネットにアクセスし「吉川減災ナビ」で検索して、インストールする。

＜問い合わせ＞吉川市危機管理課☎982・9471。

ビジネス支援など コロナ対策10億円

越谷市が補正予算

越谷市は、新型コロナウイルスの新たな支援策として、総事業費10億3800万円の一般会計補正予算案を4月25日の同市臨時議会に提出し、賛成多数で原案通り可決した。

新たな支援事業は、市内の中小零細事業所の労務管理や経理などのデジタル化が進んでいないため、「ビジネスサポートセンター」を開設し、事業所からの相談を受けるほか、ビジネスソフトの体験もできるようにする。

同センターは、同市産業支援センター二番館（同市東越谷1丁目、ハローワーク越谷隣）に設置され、業務は越谷商工会議所（井橋吉一会頭）に委託される。この事業に640万円を計上した。

また、市内の店舗や事業所が、市内の業者を利用して換気扇や洗面台など感染対策に必要な改修工事を行う場合、工事費の一部（補助対象経費の50％、上限100万円）を助成する。事業費は5080万円。50か所の改修工事を想定している。

さらに、2回目の「地域振興券事業」も10月にスタート。プレミアム付き地域振興券（1冊1万3000円分を1万円で販売）を発行し地域経済の回復を図る。12万冊発行し、事業費は5億5200万円。

このほか、「生活困窮者自立支援金給付事業」に2500万円。民間保育園の感染対策の備品購入を補助する「保育施設への感染症対策への支援事業」に6790万円。小中学校の理科室へ「GIGAスクール（児童生徒1人に1台のコンピューターと高速ネットワークを整備する取り組み）」対応のネットワーク環境の整備費に2400万円など。

次回発行は5月30日

【おことわり】「松原手帳」は筆者急病のため、しばらく休みます。

生コン・建築材なら
砂利・砂セメント
生コン製造販売！
総合建築材一般販売！
生コンクリート
日本工業規格認証取得工場
㈱櫻井建材店
本社工場／越谷市七左町1－123
☎048(987)0211代 FAX(987)0215
杉戸工場／
☎0480(34)6987代 FAX(33)4857

【情報漏えい事故を予防】【泥棒・犯罪から狙われにくい環境をつくる】
UTM（統合脅威管理）
防犯・監視カメラ
「WatchGuardXTM」
旧日光街道（足立越谷線）新田駅入口
ビジネスランド
048-935-0200

応援します きれいな街づくり

営業のご案内
《一般廃棄物収集運搬業許可》草加市、越谷市、春日部市、八潮市、杉戸町、三郷市、幸手市、さいたま市、川口市、戸田市、吉川市、蕨市、上尾市、久喜市、宮代町、松伏町、伊奈町
《産業廃棄物収集運搬業務》埼玉県、東京都、茨城県、千葉県、群馬県、福島県、神奈川県、栃木県
《浄化槽維持管理業務》埼玉県、千葉県、茨城県、さいたま市
《テレビカメラ調査》川越市、船橋市、群馬県、千葉市、柏市、川口市、越谷市、戸田市、幸手市、春日部市、久喜市、松伏町、宮代町、杉戸町、伊奈町
《給水装置工事業務》草加市、越谷・松伏水道企業団、三郷市、八潮市、吉川市、川口市、春日部市、戸田市、蕨市
《その他の営業種目》一般建設業管工事、排水管清掃業務、ハウスクリーニング、エアコン清掃業務、医療廃棄物の収集運搬業務、古物商（NO.431050012955）、ガソリンスタンド業務、貯水槽清掃業務、下水道清掃業務、警備業務
SCS
エスシーエス 株式会社 代表取締役会長 野崎 友義
取締役社長 鈴木 努
・本社 草加市青柳2丁目19番10号 TEL 048–936–1234 FAX 048–936–3344
ホームページ http://www.scs-kk.co.jp
・八潮支店 八潮市八潮6丁目1番地9号 TEL 048-994-1133
・越谷支店 越谷市谷中町1-71-8 TEL 048-965-1105
・川口支店 川口市前川1-26-36 TEL 048-262-4140
・茨城支店 茨城県常総市蔵持656番地 TEL 0297-42-0678
・さいたま支店 さいたま市緑区大牧1446-7 TEL 048-874-5781
・松伏営業所 北葛飾郡松伏町松伏2433-12 TEL 0120-02-1233
・戸田支店 戸田市下前1丁目13番15号 TEL 048-443-4040
・吉川営業所 吉川市高久1-6-5 TEL 0120-02-1233
・春日部支店 春日部市東中野1419-4 TEL 048-746-8539
・蕨営業所 蕨市塚越6丁目15番13号 TEL 0120-02-1233

東武よみうりホームページ「とーよみnet」 https://www.tobuyomiuri.co.jp/
東武よみうりは読売新聞の購読者に無料でお届けします